

トモシンセシスについて

トモシンセシス (Tomosynthesis) とは

この言葉は Tomography (断層) と Synthesis (合成) の 2 つの言葉から作られた造語です。

デンスブレストとは

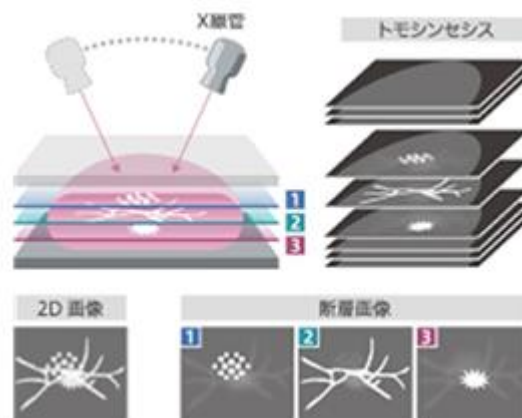
乳腺の多い乳房のことを「デンスブレスト」と呼びます。マンモグラフィでは乳腺も乳がんも両方白く写るため、「デンスブレスト」の方の乳がんは見つけにくいといえます。

日本の女性の乳がんについて

日本の女性は欧米の女性と比べて「デンスブレスト」(乳腺濃度が高い)であることが多く、がんになりやすい年代のピークが 40 歳以降と比較的若い傾向にあるため、マンモグラフィを用いた検診だけでは乳がん検出率に限界があるとも言われています。

撮影方法

通常マンモグラフィと同様、圧迫専用板で乳房を抑えて撮影するのですが、その時に X 線管が角度を変えながら複数回撮影します。得られた画像を用いて断層像を再構成(得られる画像は複数枚)することで、乳腺の重なりが少ない画像を作成できるようになりました。



その他

がん検診に使用した場合のマンモグラフィとトモシンセシスの診断能を比較した大規模研究では、「デンスブレスト」にトモシンセシスを使用すると、乳がん検出率が 28.6% 上昇したという報告もあります。受診者の中には被ばく線量が気になる方もいると思いますが、

技術の進歩により以前の装置で撮影していた線量より、トモシンセシスを追加しても低い線量で撮影できます。(左図参照) 本装置は技術の進歩により、同一社製の以前の装置で撮影していた線量よりトモシンセシスを追加しても低い線量で撮影できますのでご心配はございません。

